

THE BOSUI JOURNAL

# 防木ジャーナル

ROOFING/SIDING/INSULATION/RENEWAL

# 2

2016

No.531

## 特集

- 採用拡大が期待される塗布含浸材
- 露出アスファルト防水層の改修工事



## 改修工事の施工不良がもたらす上げ裏漏水

鈴木 哲夫

今回取り上げた事例は、大規模修繕の折にタイル張りの上にタイルや石を張り付け、外装のリフォームを行ったものである。どういうわけか、写真1のように上げ裏のひび割れや旧排水口の埋戻し部から漏水が止まらない状態が続いた。

写真1の上部は、前回の大規模修繕時まで花壇であったところを埋戻し、平場部のかさ上げモルタル均しを行った上で立上りとともに塗膜防水を



写真1 常時水滴が垂れ落ち、苔の繁殖がある上げ裏の漏水部

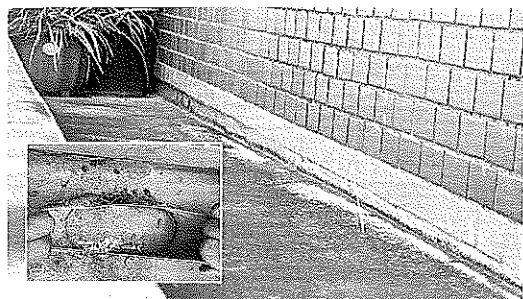


写真2 行ってはならない外壁タイル面の立上り被せ防水



写真3 暴露により外壁の下地に潜った雨水を確認



写真4 防水末端処理のため躯体に切り込みを入れたところ(矢印)

施してあった。また、写真2のように新規タイル張りした1枚分まで被せ防水を施してあった。立上り付近平場部の防水層を剥がしてみると、想定したとおり内部は水でべたべたであった。さらに、写真3右下のようにタイル張りが2重で内部から水が噴き出し、同写真右上では石張りの上に立上り防水層が設けられ、剥がしてみるとこれも水が噴き出した。

このような納まりになると、上部タイルや石裏に潜った雨水は、防水層の裏に供給される。絶対にやってはいけない施工納まりである。

こういった場合はどう改修したらよいか。防水末端の納まり改善を行うことだ。防水立上り部分のタイルや石は、写真4のように躯体まで全てはつり取り、躯体面に立上り防水層を施す必要がある。末端は、上部からの雨水流下に備え、Vカットしてシールする。ただし、タイルをカットした躯体までの切り口はシールを施さない。浸透水の出口になるからだ。つまり、タイル張り裏の雨水の流下があっても、防水層の裏に雨水が供給されないようにすればよいのである。

外壁のタイルや石張りなどは、下地内部に雨水が浸透して流下することがほとんどであるから、うまく水を逃がす工夫がなければ、防水しても水防守にならない場合があることを記憶にとどめておきたい。

(南鈴木哲夫設計事務所 代表取締役)